



水辺のごみ削減学習プログラム (様々な活動での実践事例紹介)



■はじめに

水辺でのごみ拾い(クリーン)活動に、環境学習の要素を意識して加えることで、参加者はごみに関する理解を深め、ごみ削減の効果を高めることができます。

(基本的なプログラムについては既に紹介しています。

参考:水辺のごみ削減学習プログラム2018⇒ <https://kawagomi.jp/img/prog2018.pdf>)

いろいろな形態のごみ拾い活動で、環境学習を追加したプログラムを紹介します。活動に役立つヒントが見つかると思います。

■事例紹介のねらい

水辺のごみ拾いは、場所・周囲の環境・参加者の構成・規模・季節などによって、それぞれのやり方があります。いくつかの事例を紹介し、この中から自分たちの活動でも活かせる部分を見つけ、参考にさせていただくものです。

多くのごみ拾い活動で環境学習効果のあるプログラムが実践されることを推奨します。

■もくじ

- I. ごみ拾い活動について(共通項目)
- II. プログラム事例
- III. オプションプログラム事例
- IV. 資料集

I. ごみ拾い活動について(共通項目)

どの活動にも共通する、準備、調査、ふりかえりについて紹介します。

1. ごみ拾いの準備(共通)

ごみ拾いを実施する際には、事前に以下の準備をします。

- ・回収したごみ処理方法の確認。
(必要に応じて、管理者-自治体など- に相談)
- ・ごみ回収者に合わせたごみの分別を確認。
(燃やす/燃やさない ペットボトル、ビン、缶、プラスチック容器の分別など)
- ・資材(ごみ袋、トングなど)の準備。
ごみを最後に分別する場合は、下に敷くブルーシートなども用意。
- ・安全の配慮(下見をして、危険な場所・物がなかなどを確認し、対応します。当日は救急セットを持参)。
- ・参加者への持ち物、服装の連絡(軍手、長袖・長ズボン、夏は水筒、帽子など)。
- ・必要に応じて保険に加入。
- ・ごみ調査カード、ふりかえりシートの用意(数えながら拾う場合は、グループに1枚程度。最後に数える場合はリーダー分程度の枚数)。

ごみ調査カードについては、P. 4を参照ください。

2. ごみ調査(共通)

ごみの種類や個数を調べることで、ごみの内容にも目が向きます。ごみ拾いの際に、活動に合った調査を取り入れると環境学習効果が高まります。

■調査項目(調査カードの例)

3種類の調査カードを紹介します。活動に合わせて選びます。

①(例1)川ごみ調査カード(48項目)

詳細な調査をしたいときに採用。ごみデータを解析するのに役立つ。

②(例2)水辺のごみ調査カード(10項目程度、任意)

自分たちの気になるごみを追加し、オリジナルの調査カードを作成。地域のごみの問題を見えやすくします。

③(例3)水辺のごみ見つけシート(3項目)

気軽に取組み、全国調査に協力します。

■調査・集計の方法

活動場所の状況、参加者の年齢層、人数、経験度合いなどによって、調査の方法を選びます。

①数えながら拾う

5~6人のグループで1枚の調査カードを持ち、拾う度に報告します。記録係の人が「正」の字を書きながら記録します。(ごみが多い場合や①川ごみ調査カード利用の場合に適します)



②自分で分別し、最後に数える

分別する容器(箱や袋など)を事前に用意し、参加者各自が拾ったごみを分別し、最後にカウントしやすくします。



③みんなで分別し、数える

回収したすべてのごみをブルーシートの上を広げ、皆で分別とカウントをします。(ごみが多くない場合に適しています)



3. ふりかえり(共通)

活動の直後に、ふりかえりの時間を持つことがとても重要です。
ふりかえりの時間を持つことで、ごみの原因や影響などを考え、削減の意識を高めることとなります。

- ・どのようなごみが多かったのか、なぜここにこのようなごみがあるのか(ごみはどこから来たのか)、ごみの影響、ごみを減らすためにできることなどを考えます。
- ・まず自分で考え、その後考えたことを周囲の数名で伝え合い、共有できるとよいでしょう。
- ・ふりかえりシート(資料3を参照)を事前に用意すると役立ちます。

A まち探検 &ごみ拾い

- [対象] 地域こども育成、こども会
- [特徴] 地域の環境への気づき

(オプション)
メッセージ
カード作成

B 川調べ学習

- [対象] 小学生(総合学習)
- [特徴] 事後学習とセット

C ウォーキング ごみ拾い

- [対象] 一般(広く公募)
- [特徴] 楽しむ(ビンゴ活用)

(オプション)
川ごみ
ビンゴ

D クリーン キャンペーン

- [対象] 一般(活動団体・地域住民)
- [特徴] 意見交換会で次へとつなげる

A まち探検 & ごみ拾い (1)

地域学習の中に川ごみ拾いを導入

■ 事前準備

- ・ごみ拾いの準備(共通)(P.3)を参照。
- ・子どもたちが屋外で活動する場合は、同行できるスタッフを多めに確保します。
- ・<オプション> メッセージカードを1人あたり2枚程度の枚数を用意します。

■ プログラム(例)

- | | |
|--------------------------------|-----------|
| (1) 集合・挨拶 | [約5分] |
| (2) グループ分け(各グループのリーダー、記録係を決める) | [約5分] |
| (3) まち探検 & ごみ収集の説明 | [約10分] |
| (4) 作戦タイム | [約5分] |
| (5) まち探検 & ごみ拾い | [約30～90分] |
| (6) ふりかえり (P.7を参照) | [約15～30分] |
| <オプション> ふりかえり(メッセージカード作成) | |
| (7) 全体まとめ・閉会 | [約5分] |

A まち探検 & ごみ拾い (2)

活動事例



(1)グループ分け、作戦タイム
グループごとに、リーダー記録係などの役割分担。
まち探検では、作戦を立てます



(2)ごみ拾い
決められた通りに分別しながら、回収していきます。



ごみ個数カウントは、拾いながら数えることも、最後にまとめて数えることもできます。
(P.6を参照)

(3)ごみ個数カウント
拾ってきたごみを取り出し、調査項目のごみの個数を数えます。

屋外でもできます。
屋内で場所が確保されれば、より落ち着いて実施できます。



(4)ふりかえり
感想やごみの原因などを考え、グループで共有します。メッセージカードの利用もできます。¹⁰

■ポイント

- ・自分たちが住んでいる町の中にある川のごみ拾いは、まち探検とセットにすることで、川を含めた地域の環境に対する関心を高めます。
- ・川沿いのごみだけでなく、町の中のごみも拾って、川ごみと町ごみとの共通点や違いなどを、ふりかえりで考えてみましょう。意外な気づきがあるかもしれません。
- ・まち探検では、歩く経路に合わせたクイズや、経路地図を示した指令書などを用意しておくとうれしく盛り上がります。
- ・〈オプション〉 ごみ拾いとふりかえりを行った直後(思いが強いうちに)、周囲の人に伝えるためのメッセージカードを書いてみましょう。子どもたちが、自分の言葉で、周囲の大人(家族や先生など)や、友だちに、伝えることを手助けします。(P.21を参照)

総合学習の中で川ごみへの理解を深める

■ 事前準備

- ・ごみ拾いの準備(共通)(P.3)を参照。
- ・子どもたちが屋外で活動する場合は、同行できるスタッフを多めに確保します。
- ・グループ分け(各グループのリーダー、記録係を決める)を事前に行います。

■ プログラム(例)

- | | |
|--------------------|-----------|
| (1) 集合・挨拶 | [約5分] |
| (2) ごみ拾いの説明 | [約10分] |
| (3) 川調べ学習 & ごみ拾い | [約30～90分] |
| (4) ふりかえり (P.7を参照) | [約15分] |
| (5) 事後学習 | [約30～60分] |
| (6) 発表(任意) | |

活動事例



(1) ごみ拾い
調査カードを用いて、数を調査しながらごみを拾います。



(2) ふりかえり
感想などは、なるべく直後に出し合ひましょう。



(3) 事後学習
関連する情報を伝え、自分たちにできることをあらためて考えます。

室内で落ち着いて学習することができます。



(4) 発表
学習を通して感じたことをまとめて発表します。自分たちの言葉で周囲に発信します。

■ポイント

- ・小学校で授業時間を確保するためには、前年度中に話を詰めて、年間計画に入れていただくのがよいでしょう。
- ・できるだけ事前学習で、実施内容を共有し、グループ分け、役割分担などを行ったうえで当日に臨みます。
- ・事後学習では、活動した河川的位置、川の水はどこから来て、どこへ行くのかなどを確認しながら、ごみのゆくえを考えてみます。プラスチックごみの課題など、学年に合わせた情報を伝えておくと、効果が高まります。子どもたちが集中できる時間は限られるので、クイズや周囲の人と話し合う時間などを盛り込み、飽きさせない工夫をしましょう。
- ・機会があれば、積極的に発表の機会を作ります。校内集会、保護者が集まる機会、地域のイベントなどを利用しましょう。

楽しくごみ拾いをしながら環境学習

■事前準備

- ・ごみ拾いの準備(共通)(P.3)を参照。
- ・ゴール地点(できれば途中で数カ所)で、集めたごみを回収する方法を決めておき、回収の手配をしておきます。
- ・<オプション> 川ごみビンゴカードを参加予定人数分用意します。

■プログラム(例)

- | | |
|-----------------------------|------------|
| (1) 受付 | |
| (2) 集合・挨拶 | [約5分] |
| (3) コース、スケジュール、ごみ拾い方法等の説明 | [約15分] |
| (4) ウォーキングごみ拾い
お楽しみプログラム | [約30～120分] |
| (5) ふりかえり (資.7を参照) | [約15分] |
| (6) 全体まとめ・閉会 | [約5分] |

活動事例



(1) 受付

受付チェックした後に、参加者が自分で、ゴミ袋やトンクを受け取れるように準備しておくスムーズです。



(2) ごみ拾い

一般道路では、自動車や自転車に注意。列が長くなりすぎないようにスタッフが気を配ります。

なるべく、参加者自ら分別し、回収できるように、回収箱を用意します。



(3) ごみ分別

ごみを最後まで持って歩くのが大変な場合は、途中にごみ回収ポイントを用意します。



少しでも景品があると、なお盛り上がります。

(4) お楽しみ

休憩を兼ね、ポイントでビンゴ上位者を称えると盛り上がります。

■ポイント

- ・水辺で集めたごみの中には重いものも多くありますので、ウォーキングごみ拾いの場合は、最後まで持ち歩くのが大変になることもあります。ごみが多い場所では、途中でごみを回収するポイントを設定しておき、回収ができるように手配しましょう(スタッフが車で運搬するなど)。
- ・参加者自らがごみを分別するようにしましょう。それによって、各自がごみの種類と量まで把握することができます。
- ・〈オプション〉ビンゴカードを利用することによって、楽しみながらごみ拾いができると同時に、どのようなごみが落ちているのかまで認識することができます。

地域住民と共に、地域のごみの課題を共有する

■ 事前準備

- ・ごみ拾いの準備(共通)(P.3)を参照。
- ・意見交換のテーマを用意しておきます。
- ・自治体の担当者の参加を希望する場合は、早めに連絡を取り、事前の打合せを行います。

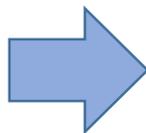
■ プログラム(例)

- | | |
|--------------------|-----------|
| (1) 受付 | |
| (2) 集合・挨拶 | [約5分] |
| (3) ごみ拾い方法等の説明 | [約10分] |
| (4) ごみ拾い | [約30～90分] |
| (5) ふりかえり (P.7を参照) | [約10分] |
| (6) 意見交換会 | [約10～30分] |
| (7) 全体まとめ・閉会 | [約5分] |

活動事例



(1) ごみ拾い
活動範囲を決めて、自由に回収していきます。



(2) ごみの分別
集めたごみをブルーシートに開けて、みんなで分別します。

あらかじめ、場所を分けて、分別しやすいようにします。



温かいものを用意して、皆でいただくと、和んで、話もはずみます。(任意)



(3) ふりかえり+意見交換会
まずは、ふりかえりで感想などを述べ合います。さらに意見交換会として、テーマを伝えて話し合いの時間を持ちます

■ポイント

- ・最後にまとめてごみを分別する場合は、一定の時間を要します。分別担当の人を決め、ごみ拾いの途中から分別を始めるとスムーズに進みます。
- ・ふりかえりでは、まず、どのようなごみが多かったのか、感じたことなどその日の活動に関するについて共有します。
その後の意見交換会では、「ここのごみを減らすためにできること」などのテーマを設けて、皆で話し合います。
- ・ごみの多い現実や課題を目の前にした意見交換会は、具体的な意見が出やすくなります。
- ・意見交換の際には、個別のことを責めたり、否定的な意見ばかりにならないようにします。コーディネーター役が、前向きな話となるように注意を払うことが大切です。
今後の対策に結びつくことが意識できるとよいでしょう。
活動団体だけでなく、地域住民、自治体担当者なども共に意見交換ができるよう、活動参加者を募ることが重要となります。

Ⅲ. オプションプログラム事例

オプション1) メッセージカード作成

■ 概要

ごみ削減の行動を自らが実践し、次のステップとして周囲の人にも伝え、広めていくことが大切です。周囲の人に伝えるためのツールを用意し、行動を促します。

■ ポイント

- ・ふりかえりの最後に時間を確保します(思いが強いうちに自分の言葉にします)。
- ・誰に伝えるかを決めてメッセージを書きます。
- ・活動で感じたことを話しながら、記載されたカードを相手に手渡しし、思いを伝えましょう。



■ 概要

川でよくみられる項目を記載したビンゴカードを用意します。ごみを拾いながら、拾ったものをチェックし、ビンゴゲームをします。

■ ポイント

- ・どのようなごみがあるか等、ごみの内容(種類)に目が向くようになります。
- ・ごみを見つけたら拾うという意欲が増します。
- ・景品を用意するとさらに盛り上がります。



IV. 資料集

資料1. (例2)水辺のごみ調査カード

資料2. (例3)水辺のごみ見つけ！報告シート

資料3. ふりかえりシート

実践活動で利用。ごみ拾い後のふりかえりの時間に使用します。

資料4. ふりかえりカード

周囲の人にメッセージを伝えるのに役立ちます。ふりかえりの中で使用します。

資料5. 川ごみビンゴカード

楽しいごみ拾いをする際に役立てます。

※いずれも、これら資料を参考に適宜変更しご利用ください。

本資料で紹介した実践活動は、以下の皆さまにご協力いただき実施しました。

A: 志津わんぱく協働合校、B: 杉並区立井荻小学校、C: NPO法人海さくら、D: ミライ・桂川、桂川・相模川流域協議会

お問い合わせ先:



全国川ごみネットワーク

<http://kawagomi.jp/>

(Eメール) kawa53@kawagomi.jp



※独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金企業協働プロジェクト(LOVE BLUE助成)を受け、作成しました。

水辺のごみ調査カード

グループ名

<余白に「正」の字を書いてカウントしてください>

個数

		正	
1	飲料ペットボトル		
2	ペットボトルのふた		
3	レジ袋		
4	カップ型 飲料容器 (店頭販売容器含む)		
5	あき缶		
6	飲料パック・ストロー		
7	食品ポリ袋 (お菓しの包装など)		
8	プラスチック容器 (トレイ、カップめん、弁当容 ... ど)		
9	紙くず		
10	たばこのすいから		
11	破片類		
12	(スペシャル-自由に項目を決めてください)		
13	その他		

水辺のごみ見つけ! 2019 報告シート

▼調査内容 ※は必須項目

団体名非公開

※ 団体名
又は個人名

※ 人数

※ 調査年月日

年

月

日

※ 回収の有無

調査のみ

回収済み

※ 調査場所

川

海

湖沼.その他の水辺

まち

※ 場所名称

例：〇〇川 (〇〇水系)
水系がわかる場合は記載

※ 都道府県

※ 市町村

※ 調査地点

例：〇〇橋周辺など

※ 調査距離

m

両岸

片岸

水辺の距離、川の場合は片岸の距離、まちの場合は道のりの距離を記載下さい



※ 飲料ペットボトル

個



※ レジ袋

枚



※ カップ型飲料容器

個

なぜ、この場所にごみがあると
考えられますか？

多かったごみ・気になったごみ
ごみを減らすためにできる事など
気づいたことを記入ください

▼報告者情報

※ 氏名

※ MAILまたはFAX

注意事項

- 毒ヘビやスズメバチなど危険な生き物にご注意ください。
- 水面・水中での活動以外の場合は、水の中には入らないようご注意ください。
- ボランティア保険、傷害保険などはそれぞれでご加入ください。
- 水面・水中で活動する場合は、必ずライフジャケットを着用し、安全に配慮ください。

報告書シート送付先 FAX:0234-28-8191 MAIL:kawa53@kawagomi.jp

調査時の写真をご送付ください。ホームページ、パンフレットなどで紹介させていただきます。

ふいかえいシート

●ごみ^{ひろ}拾いで^{かん}感じたことを^{はな}話し^あ合いましょう

●川^{かわ}にごみがあると、自然^{しぜん}やみなさんのまわりにどのような^{えいきょう}影響がある^{おも}と思いますか？

●ごみは、どこからや^{おも}つてきた^{おも}と思いますか？

さんへ

より

さんへ

より

さんへ

より

さんへ

より

～プラスチックごみを減らそう～



私たちのみちかな川は、
海へとつながっています。
私たちの生活から出るごみは、
ボロボロになって細くなったり、
ごみ箱からあふれたり、
屋外の雨や風で流されて水路へ入り、
やがて川から海へと流れていきます。

海のプラスチックごみで
苦しんでいる生きものもいます。
私たちの生活をみなおすことが、
海のいきものを守ることに繋がります。

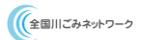


～プラスチックごみを減らそう～



私たちのみちかな川は、
海へとつながっています。
私たちの生活から出るごみは、
ボロボロになって細くなったり、
ごみ箱からあふれたり、
屋外の雨や風で流されて水路へ入り、
やがて川から海へと流れていきます。

海のプラスチックごみで
苦しんでいる生きものもいます。
私たちの生活をみなおすことが、
海のいきものを守ることに繋がります。

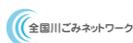


～プラスチックごみを減らそう～



私たちのみちかな川は、
海へとつながっています。
私たちの生活から出るごみは、
ボロボロになって細くなったり、
ごみ箱からあふれたり、
屋外の雨や風で流されて水路へ入り、
やがて川から海へと流れていきます。

海のプラスチックごみで
苦しんでいる生きものもいます。
私たちの生活をみなおすことが、
海のいきものを守ることに繋がります。

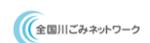


～プラスチックごみを減らそう～



私たちのみちかな川は、
海へとつながっています。
私たちの生活から出るごみは、
ボロボロになって細くなったり、
ごみ箱からあふれたり、
屋外の雨や風で流されて水路へ入り、
やがて川から海へと流れていきます。

海のプラスチックごみで
苦しんでいる生きものもいます。
私たちの生活をみなおすことが、
海のいきものを守ることに繋がります。



BINGO

川ごみ用



全国川ごみネットワーク

BINGO

川ごみ用



全国川ごみネットワーク